

## トップ会談

佐賀新聞に連載していた「佐大スケッチ」を大学のホームページで続けると最終回に書き、新聞社からも引き続き「佐大スケッチ」の名称を使っても良いとのお許しもいただいたので引き続きご覧いただくと幸いです。

新しい年の始まり、大学での初仕事は昨年10月10日に包括協定を結んだ六者のトップ会談。六者とは、佐賀県、市長会、町村会、佐賀県商工会議所、佐賀県商工会連合会そして佐賀大学である。このような包括協定は全国初とのこと。

これまで、大学と個々の組織やそこに属する自治体や企業とは、個別に人的な交流などで連携をとってきた。今更と言う声も聞かれたが、きちんと協定を結び、六者で、（六者でというところがみそであるが）「佐賀の課題」を解決していく場を作る意義は大きいと思った。

締結式も終わり、21年度からの事業が決まった。早速、年末に個別事業のワーキンググループの会議が開かれた。各団体から90人近い人々が集まったと聞いた。その場において討論を聞き取った。今後も、佐賀の課題解決のため、様々な立場からの意見が出て、お互いの情報が共有され、知恵を出し合い、意欲あふれる場であって欲しい。

この協定のエンジン役は、各組織の担当者会議である。大学では地域貢献室が担っている。そしてもう一つはトップ会談だと私は考えている。締結式の日、忙しいトップがせっかく集まるのだから、サインと記者会見だけで終わりはもったいない。短い時間でもいいのでオフレコの放談会をしようと提案をした。言い出しっぺが司会をとということになり、少し心配したが「では始めます」の言葉と同時に大学への提案が相次ぎ、暗いニュースばかりなのでこの会のニュースを積極的に出そう。一緒にこんなことができるのでは、など「もう時間です」の30分間活発な意見が出た。まさに良い意味の放談会だった。

そして2回目。8日に学長宿舎で開かれたが、小さなテーブルを囲んでの会談で、テーブル起こ

しや記者発表などないので一回目以上に突っ込んだ情報交換が行われ、トップ会談自体が新たな課題の解決の場になりそうな予感がした。次回は夏の終わりにということになった。包括協定の詳細についてはホームページの地域貢献室からご覧いただきたい。各トップのサインも見る事ができる。



各団体から90人近い方々が集まったワーキング・グループ全体会議



1月8日に学長宿舎で開催された6社トップによる放談会の様子